特 243
679

第四六二號
昭和九年四月

# ホランヂア及其の周邊

財團法人 南洋經濟研究所

始

特 243
679

# はしがき

本資料は蘭書「移植民地域としてのニウギニア」Nieuw-Guinee als Kolonisatiegebied door Dr. J. Winsemius, 1936 中の標題章節を全譯したものである。

蘭人の著眼は我々日本人とは根本的に異なる所あり、彼等が不可能としたニウギニア開拓を我南洋興發會社が著々實行成功した實例もあるが、兎に角他山の石として參考に供する。

本號に譯出した部分は原書中左の部分である。飜譯擔當者　越村長次

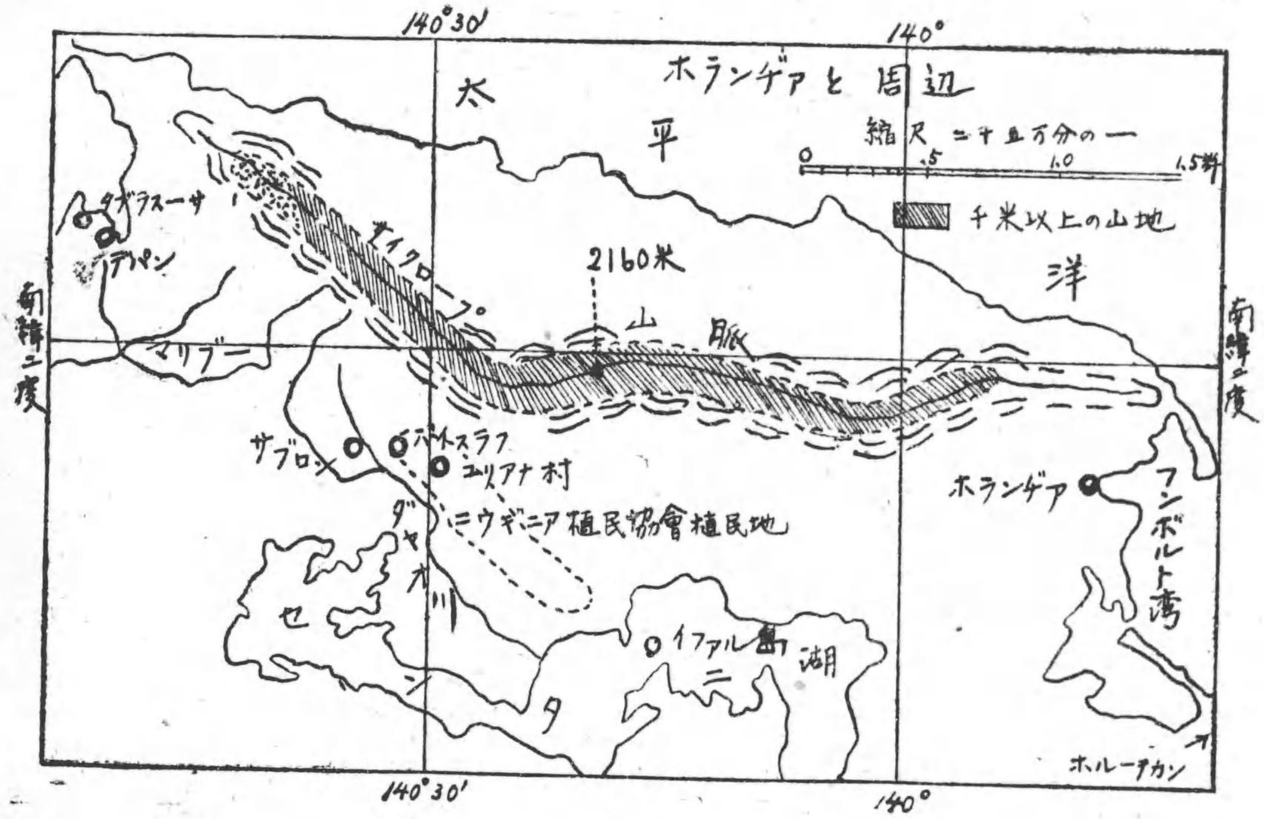
第十章ホランヂア（原書三〇一頁—三二八頁）

昭和十九年四月七日

財團法人
南洋經濟研究所

## 目次

一　位置……一
二　地質……一
三　氣候……二
四　土壤……三
五　移民……四
六　パプア人……八
七　植民地……八
八　起源……一一
九　改善案……一三
一〇　パプア人勞働者の利用……一四
一一　補助とその成績……一六
一二　衞生狀態……一八
一三　精神的特性……二〇
一四　財政狀態……二一
一五　KNG（ニウギニア植民協會）失敗す……二二
一六　自由移民……二四
一七　棉花……二五
ホランヂヤと周邊（地圖）……卷頭




## ホランヂア・センタニ湖 (Hollandia het Sentanimeer)

マンベラーモ河口 (de Mamberamomonding) より濠洲委任統治領に至る北部海岸に次の三平地存在す。

一　センタニ湖 (het Sentanimeer) 周邊の平地。此處にはニウギニア植民協會の現代的植民地設置せらる。

二　ヒムブーラン (Himboeran) 平地。前記の西方に位置し、地味荒蕪たり。

三　タカール (Takar) よりサルミ (Sarmi) に至るワクデ (Wakde) 島近傍の海岸地區。トール (Tor) 河河口に近きホール・マッフィン (Hor Maffin) に所謂「自由移民」のみ存留す。(附圖參照)

### 一　位　　置

一内務指揮官 (un gezaghebber) の駐在地にして、且つ濠洲委任統治領との國境に近く設置されたるホランヂアは、概位南緯二度三三分、東經一四二度四四分、ニウギニアの北部海岸に位し、赤道に近接し、西方所在のサイクロープ (Cycloop) 山脈に依り、西北季節風を遮斷する天然の良灣フムボルト (Humboldt) 灣に面す。此の山脈は海中より直ちに屹立するを以て、ホランヂアよりデムタ・デバプレ (Demta・Depapre) に至る海岸は近接し難し。

### 二　地　　質

地質より見て、主として結晶片岩より成るサイクロープ山脈を、新第三紀層丘陵地帶とその沖積鑛床とに分ち、ニウギニア植民協會の植民地は、センタニ湖畔、ダヤオの沖積平地上に在りて、サイクロープ山脈の結晶片岩及び蛇紋岩にて充つ。此等の岩石は元來不毛の土壌を爲すものなるが、此處にては諸所に多くの石英粒を含有する爲め、特に地味不良なり。センタニ湖の南方には、新第三紀(jongtertiaire)の泥灰岩(mergel)

粘土、砂岩及び石灰岩等があるが、此の地の氣候より見て地味を不良ならしむるを以て、此處への農耕地の移轉は比較的僅少なるべく、加之、その輸送費は可成りに昂騰するものあるべし。

## 三　氣　候

氣候は熱帶性多雨氣候にして、又濕度強き炎熱の原生林氣候と稱せらる。海に臨むホランヂアの年平均溫度は大約攝氏二六度に該當す。センタニ湖北方の開拓地域の高さは最高一五〇米位なるを以て、年平均溫度は凡そ攝氏二五度なるべし。氣溫の低下は實際無意味なる位微弱なると共に、サイクロープ山脈が清涼なる海風を遮斷するを以て、全く涼氣を缺く。

ホランヂアに於ける降雨量は年に二、三三六粍に達し、一年間の分布左の如し。

| | ホランヂア | デムタ |
|---|---|---|
| 一月 | 二九五粍 | 四三四粍 |
| 二月 | 三一〇 | 三一六 |
| 三月 | 三〇三 | 三七八 |
| 四月 | 二一七 | 三三八 |
| 五月 | 一五五 | 二三七 |
| 六月 | 一五二 | 一九七 |
| 七月 | 一五四 | 一五五 |
| 八月 | 一六〇 | 一六九 |
| 九月 | 八六 | 一六八 |
| 一〇月 | 一四〇 | 一五九 |
| 一一月 | 一七〇 | 三〇五 |
| 一二月 | 一九四 | 二九五 |
| 年合計 | 二、三三六 | 三、二五一 |

幾分乾季と稱するものもあれど此處では猶可成り多量の降雨ありて、乾季の期間を制限す。此の氣候よりせば小範圍農耕(Kantoenverbouw)が唯一の適應性を示す。乾燥は局部的にして、單に一小地域に限定せらる。蓋し、デムタにては九月に既に一六八粍の降雨量あるに對し、ホランヂアにては八六粍に過ぎざればなり。西北季節風中は、ホランヂアはサイクロープ山脈の雨の遮蔽地域に在り。此の山頂は非常に狹き境域を占むるに過ぎず、卽ち海岸に平行して走る山脈の一、〇〇〇米以上に於ては、長さ最大二五粁、幅は僅に六乃至七粁あるに過ぎず。此の山脈は海及周邊の低地より豪然聳立し高さ二、一六〇米あり。此の山脈とセンタニ湖との間にある地方のみは此の峻嶮たる山脈の雨の遮蔽地域內に在りて、此處にニウギニア植民協會の開拓地存す。センタニ湖畔のイファル(Ifar)も亦此の適量濕度地域內に存すも、漸次西方に赴くに從ひデバプレ附近にては、雨量は增加す。遺憾乍ら北岸沿ひに、斯かる標高を有し、海に近接する山岳地方は他にあらざるを以て、幾分乾季らしき氣候を有する地域は他の何處にも期待され得ず。

## 四　土　壤

乾季餘りに短かく氣候概して濕潤過ぎる結果、此處にては亦土壤の浸出生ず。此の地域の沖積地は、有望にして平坦なる地勢なれども、極めて不毛なり。利用可能地の內最も肥沃なるものはバプア人居住し、彼等の使用地として保留せらる。之れに屬するはマリプウの七五ヘクタールの廣大なる平地にして、最初移民(コロニスト)等

の定住せし所なれど、二回目の收穫後土壤は全然不毛と化したるを以て放棄せり。フムボルト灣の近傍及び更にニウギニア植民協會の開拓地の存するダヤオ川に沿ひては可成り利用可能の土地あり。此等以外にも左程ならざる利用可能地は各處に存在し、正味一千ヘクタールを計上することを得れども大部分は土着住民の爲に保留せられ居れり。

ダヤオ平原にては、パプア人がその耕地を拓きたる後、農地を變更する爲め放棄せられし土地は、アラン・アラン草原として殘存し、或るものは疎林と化せり。乾季と濕季との差及び貧弱なる土壤等の爲め、此等のアラン・アラン草原はセンタニ湖の北方に點々として散在す。元來土壤が砂礫に富むを以て、ニウギニアの隣接部分にては知られざる現象なれども水不足すら見ることあり。アラン・アラン草原は稀薄なる腐植質土層を有するに過ぎざれば、一回の收穫後は、土地の生產力は著しく減退す。ダヤオ平原の使用可能地は多くの不毛地の間に散在するを以て、使用可能地の面積は案外少なきものと考へらる。

## 五　移　民

ホランヂア副分州の歐洲人は、一部の官吏を除き、移民（補助）と歐洲人農場主とに分類することを得。我々の先づ觀察せんとする移民は一部の者を例外として、結局「ニウギニア植民協會」に屬し、その指導の下に生活するものにしてホランヂアの植民事業は結局「ニウギニア植民協會」の植民事業を意味するものにして一九三〇年に開始せられたり。

### 送出移民（植民地域に於ける出生をも含む）

| 年 | 男子 | 家族 | 合計 |
|---|---|---|---|
| 一九三〇年 | 三九人 | 六人 | 四五人 |
| 一九三一 | 三一 | 四八 | 七九 |
| 一九三二 | 八 | 二二 | 三〇 |
| 一九三三 | 二〇 | 一二 | 三二 |
| 一九三四 | 五 | 一二 | 一七 |
| | 一〇三 | 一〇〇 | 二〇三 |

此の間に歸還せる移民數は次の如し。

### 歸還並びに死去移民數

| 年 | 男子 | 家族 | 死去 | 合計 |
|---|---|---|---|---|
| 一九三〇年 | 二人 | 一人 | 一（女）人 | 三人 |
| 一九三一 | 二六 | 二七 | 一（女） | 五四 |
| 一九三二 | 一四 | 六 | — | 二〇 |
| 一九三三 | 三 | — | 一（男） | 四 |
| 一九三四 | 二四 | 四 | 一（兒） | 二九 |

斯くして一九三四年九月には差引合計九三人を數ふ。

此の「ニウギニア植民協會」の發展狀況は、其の資料に依れば次の如し。一九三一年一月一日現在人員四二名、一九三二年一月一日現在六七名、一九三三年一月一日現在七七名、一九三四年一月一日現在一〇五名一九三四年九月現在九三名(註一)、一九三六年一月には結局總數九二名を算せり(註二)。斯くして一九三四年以降、移民數は約百名を算し、爾來大なる變動なし。

併し乍ら、移民數は大體同數なれども、移民は既述の如く交代し、其の內容も亦變ずるに至れるを以て、此處にては恰も浮動住民を論じ得るに留まる。淘汰は、マノクワリに於けると同じく、此處にては死亡に依らず、移住地域よりの退去に依り、到來者の半數以上は退去す。そは彼等が困難と窮乏とに對抗し得ぬが故なり。Haarlemmermeer(ハールレメルメール)(註三)の開拓地に比較せんか、同所にては退去者の數は少なけれども、ニウギニアに在りては故國との連絡著しく困難なるが故に、唯一の範圍の移住はホランヂアに於ては生ぜざりき。此處にては自然の自由移住は、補助移民の協會移住には附隨せず。而かも移住協會の職責は此の目的の爲め道を拓くにあり。

ホランヂアの內務指揮官カラムプス氏よりの移民全體に關する報告書に依れば、總員九二名、一九三六年一月一日現在。內男子四八人、全體の五二・二パーセントを占め、女子は四四名、全體の四七・八パーセントを占む。

(註一) Veslog v. d. Indisch arto に掲示の數字は前記項目の一部を次の如くに明示す。

一九三四年に於ける變動

| | 總數 | 男 | 女 | 子供 |
|---|---|---|---|---|
| 一九三四年一月一日 | 九七 | 四三 | 一八 | 三六 |
| 一九三五年一月一日 | 九〇 | 三五 | 一一 | 三四 |
| 退去者 | 三一 | 二四 | 三 | 七 |
| 到來者 | 二四 | 一二 | 七 | 五 |
| 出生 | 一 | | | |
| 死去 | 一 | | | |

(註二) 年齡構成は次の如し。

(絕對數)

| | 一〇歲未滿 | 自一〇歲至一九歲 | 自二〇歲至三九歲 | 四〇歲以上 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 移民合計 | 二六人 | 一四人 | 三六人 | 一六人 | 九二人 |
| 男 | 一〇 | 七 | 二一 | 一〇 | 四八 |
| 女 | 一六 | 七 | 一五 | 六 | 四四 |

(百分比)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 移民合計 | 二八・三% | 一五・二% | 三九・一% | 一七・四% | 一〇〇% |
| 男 | 二〇・八 | 一四・六 | 四三・八 | 二〇・八 | 一〇〇 |
| 女 | 三六・四一 | 五・九 | 三四・一 | 一三・六 | 一〇〇 |

新開拓地に於ては何處も二〇歲より三九歲迄の生產的年齡群重きを爲す如く、此處にても極めて顯著なり。而して、此

處にても亦、可婚年齢の男女を以て最大數となす。

年齢五〇歳以上の移民數は七名、内男三名、女四名、總數の七・六%に過ぎず、之れに屬する者は印度支那婦人一名及び爪哇人二名なりき。移民總數中にては爪哇婦人三名、印度支那人一名、及び純粋歐洲婦人一名を數へ、更に純粋歐洲人二名なり。

（註三）和蘭ハールレム市附近のハールレム海の干拓開發地。

## 六　パプア人

センタニ湖周邊はニウギニアの内に於ても人口稠密と稱することを得。此の湖の周圍には約四千、隣接のニムブウラン平地には約一萬、フムボルト灣の周圍には合計約二千のパプア人居住す。斯かるパプア人の存在は元來ニウギニア植民協會の意圖せるが如く、同質の東印度人植民地の實現を阻害せり。蘭印到る處に見るが如く、開發植民地（Exploitatiekolonie）の異質的人種の社會にとりて、此等多くのパプア人の現存することは、却つて有利なり。パプア人の經濟的意義に關しては、爪哇人や貧民等より重要性少なきが故に、今日の移民にとりては「パプア化」の危險少きも、インド・パプア族にとりて、長期に亙るときは勿論パプア化あるべし。併し乍ら勞働者としてのパプアの素質劣惡なる爲め、此の餘り肥沃ならざる地味の土地に多額の運賃を掛けて他地より勞働者を招致する方が、世界市場に於て此種勞働者と競爭するよりも、有意義なりとす。

## 七　植民地

ニウギニア植民協會の植民地。ベースラフ及び其の東方五粁の新しきユリアナ村は、センタニ湖の北、一時間乃至一時間半の行程、ダヤオ平原のパプア人村サブロニ及びドヨの村々の近くの林中に存す。更にフムボルト灣東海岸のホール・テ・カン（Hol te kang）には一家族がその既婚の子女及び在マヘランのPa van der Steur學園の二、三の生徒等と共に居住し居れるが、此處は、最初アーベルス村（Abelsdorp Mariboe）のDepapre（デパプレー）のすぐ近くに、滯在し居たるものなり。次掲の表は一九三四年九月現在諸植民地の移民分布を示す。

| | 男 | 女 | 少年 | 少女 | 幼児 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| アーベルスドルプ（現在ホール・テ・カン） | 三 | 三 | 二 | 三 | 一（女） | 一二 |
| ベイスラフ | 二三 | 一三 | 一四 | 四 | 六（男） | 六〇 |
| ユリアナドルプ | 六 | 四 | 四 | 五 | 二（男） | 二一 |
| 合計 | 三二 | 二〇 | 二〇 | 一二 | 九 | 九三 |

斯くて合計九三名、其内アーベルス村に一二名、ベイスラフに六〇名及びユリアナ村に二一名定住し、其の三分の二は主植民地ベイスラフに居住す。マノクワリにては、住民を都市居住者として論ずる事を得れど、此處にては然らず。蓋しホランヂアには旨義通りの移民は居住せぬが故にして、之はマノクワリに反し峻嚴なる協會が此の地を支配するに因る。其の外ホランヂアは荒廢死滅の地なり。マクノワリにては、移民が生命と活氣を齎らせど、特にニウギニアの植民協會の諸植民地がホランヂアを最早輸移入港として使用せざるに至りし以來此處にては之れを缺く。ベイスラフは其處より二五粁の地に在り。食糧品の移入は――移出は此處にても未だ問題と成らず――現在サイクロープ山脈の西端の港、タブラヌサを經由す。タブラヌサ

はベイスラフより一五粁距たり、道は高低常なき丘陵地方を經て特にデバプレ近くを過ぐ。而て海迄の輸送は一ピクルに付約九〇仙を要し、斯かる高率の輸送費は生產費を昂騰せしむ。

第一次移民はデバプレ――イファル間の道路に沿へる平地に定住したるが、適當なる耕地を獲る爲には蘆雜草を伐採するを要すれども、其の反對に困難なる森林伐倒をせずに濟ますことを得と解せり。こは當然なることなれど、土地たるや極めて不毛なりしこと明かなりき。移民等は後にサプロンの近傍の大峽谷內、現在ベイスラフと稱さるる處に定住したるが、他方更に其後、ベイスラフ東方の森林地帶にはユリアナ村が、又西方にはアーベルスドルプ夫々誕生せり。此の平地は次の三部に分かる。

(a)、中央部。之は屢〻緩かなる波狀地形を爲し、漸次南方に傾斜す。

(b)、サイクロープ山脈の諸支脈間の谿谷。之は傾斜面を爲すこと多し。

(c)、南部の沼澤濕地帶。此內中央部が最も有望な地勢を占むるを以て、此處に開拓植民存在す。乾燥砂地は明かに椰子には不向にして、政府の設立せし小農園の珈琲樹は枯死するに至れり。されど之れと反對にカポック栽培に適す。砂地は頗る浸透性に富むが爲、諸河川は再三その水流を變更し著しく放浪河川に類するを以て、其の爲に移民等は多大の勞苦を嘗めたり。

ニウギニア植民協會は、自己の東印度領地 (Inds-land) を創設せんと欲し、之が爲め充分なる地域を確保せんとし、デバプレーイファル道路の北方に五千ヘクタール程の土地使用權を當局より入手せり。此の地域は殆ど全部不適當なる丘地より成るを以て、別に相當大なる地域を出願して許容せられたり。そは現在道路の南部に當る。ニウギニア植民協會は唯廣き密集地域に於てのみ協會の目的を實現する可能性存在することを正規たるものと云ふべし。

## 八　起　源

凡ての新しき植民地に大なり小なり發生する不測の禍は、亦此の最初の先驅者等をも見遁すことなかりき。ニウギニア植民協會は內務省と協定して、第一回開拓團を一九三一年の四月乃至五月にダヤオ平地へ送り込むことに決定せしが、內務省側の驚きしことには既に一九三〇年十一月には四二名より成る移民の一團が到來せしことにして、當時團員の行動に秩序些か缺くる所ありしは當然なりき。內務省は能ふ限りの援助を與へんとし移民等をホランヂアにて二軒の家屋に收容し、又物資を卽座に野營地に輸送することとせり。移民等は、此處をば新しき祖國の基地と爲さんと念慮しつつ、熱誠こめて最初の一斧を下せり。されどその昂揚せる意氣も物資の窮乏に依り早くも消滅し、就中、忽ちにして激烈なるマラリアは多くの人を病床に呻吟せしめ、又最も苦痛なる脚部創傷はこの苦惱を倍加せり。十二月船にて不充分ながら食糧は到來せるも、之れを購入する金錢すら缺乏せり。一九三一年二月には第二回開拓團が引續き到來せるが、參加人員四〇名中約二五名は兒童なりしを以て、所謂兒童開拓團と稱されしものなり。然るに先着群(グループ)は此の新來者の携帶せる器具の一部を獲得せんと欲して端なくも軋轢を生ずるに至り、Pa van der Steur 學園出身の移民にして素行治まらざる一人は鬪爭を事とするの故を以て之を隔離するの止むなき程なりき。一婦人移民は黑水熱 (Black-water-fever) の冒す所と成りて斃れぬ。三月及び四月、最早一仙の蓄なし。而かも新來の移民軍、その中には幼兒を抱ける寄邊なき一婦人すらが(!)。移民等の大部分が樂天的の宣傳に欺かれしと感ずるに至りしは自明なり。一九三一年の洪水はベイスラフに重なる損害を與へたり。

併し幸に食糧の補給は漸次改善せられたり。併し乍ら、移民等の唯一の目的は爪哇より毎日到達する夥しき收得品を、可及的に有利なる方法にて、分配することにありたるものの如し。パプア人との交易は頗る有

利に行はれたり。元來パプア人は鷹揚にして小事に拘泥せぬ仲間なり。當時政府の補助は何等義務を伴ふことなく實施せられたり。

移民が人選に妥當を缺きしを以て、其の上全く不適當なる者も渡來せり。例へば曾つては巡回曲藝團(サーカス)に出演せる一寸法師の如き之れなり。更に著しき例として精神薄弱者を以て獨立移民として送り出せることなり。此等の事態は一時のものに過ぎずとは云へ、直ちに解消し得べきものには非ざるなり。

此の地域に於て他の此の植民奬勵と提携が行はれ得るにせよ、移民の仕事慾に關しては殆んど問題とならず。當時の情況は次の記述の裡に見ることを得。「そこより移民等が遙か彼方の原生林の端迄連なる己が農園に對し、一望千里快き眺めを樂しむそのベランダ又は前廊の屋根の下に一脚の古びた籐椅子と更に通常の長床几とを置き、而して移民は日ねもすその上に横はりて三文小說に讀み耽りながら、勞働者として一握の食物を稼ぎに來る若干の、半ば飢へたるパプア人の仕事振りを監督するなり」……無能なる移民と見へしは所謂小鮫共(スチウルチエ)、卽ち歐人兵士と爪哇婦人との間に生まれし子供等に教育を施す Oranje-Nassau Stichting van Pa van der Steur te Magelang 學園の生徒達たり。恐らくは、最初爪哇で流浪生活を送りし後、その最惡の分子がニウギニアに送り出されしものなるべし。三名の少女を含む二〇名の者は爾後の者より分離して、イフアルに於て亂雜無賴の生活を營みたり。彼等は仕事の上では罪するには非ざれども、掠奪强盜の暮しを爲し、就中パプア人住民を苦しめつつあり。此等精神劣等者の大部分は其後送還せられたり。

一九三一年十一月の發表に依れば、四三ヘクタール四分の一が開拓せられ、その內既に二八ヘクタールはエベリーの農園と成り、長くニウギニア植民協會の爲に長期貸付地と成りしが、僅かにその一小部分が植付けされしのみなり。併し乍ら此の發表は後に誇張あるものと見らるるに至れり――愼重に檢討せば、次の如



くならざるべからず。卽ち約一一ヘクタール開墾され、三ヘクタール四分の三が植付けを見たるなりと。其處では――內密に――パプア人を使役せるなり。

## 九　改善案

此の僅少なる成績に鑑み、爪哇の主務局は「働らかざる者は食はざるべし」と決定し、移民等は最早食糧及び援助を無償にては得られざるに至れり。結局一九三三年五、六月頃に改善案は初めて實施せられたり。

ニウギニア植民協會の組織は尙主としては之に準據す。移民等は何等食糧及び援助を無償にては獲得し得されども、適當に協同勞働(gomeenschapsarbeid)を果せし後に於ては中央販賣所にてクーポンにて買物を爲すを得ても現金を支拂はるることなし。直接自己の使用に充つる爲、先づ食用作物を栽培することとなれり。結局本案はパプア人勞働力の使用禁令を含みしが、森林開拓の爲には例外を作れり。

移民の內譯は兒童(五名)、生徒(七名)、農民見習(二五名)及び農民(總計四名)にして、夫々一日當り二〇―二五仙、二五―四〇仙、四〇―七〇仙及び一〇〇仙の勞銀を受く。

農民は自己の仕事に專心努力する點より見て、他の者より儲けある協同勞働に缺くる爲、農民志望者及生徒に對して仕事を給與するに拘らず、後者は極めて高き給料を要求す。一日僅に一〇仙のパプア人勞働者の使用を禁止されたが爲、最良の移民たる農民の活動を阻害し、更に勞働力と企業精神とを有する彼等を妨ぐるに至る如く、卽ちパプア人勞働者の使用禁止は反對の現象を惹起せる爲、植民の困難に恐れを抱き多くの人々以外に、二、三の精力的なる移民も亦ニウギニア植民協會を見棄てるに至り、自由移民の一部はサルミ(Sarmi)へ赴き今日の棉花栽培者ファン・ルーイエン(Van Rooyen)はセンタニ湖畔のイフアルに移住せり。恐らく最後に擧げし者を除き、他の人達は新移住地に於いて成功せざりしが、此の事は殘留せる移民の

素質が、其の爲に低下せしことを變ずるものには非ず。

移民等は「植民せんとする」ものにして、「苦力働きをする」ものには非ずとの主義は實際は回避せられ其結果農民志望者は政府より土地を借用し、それをニウギニア植民協會の規則に依りて內密に所有し、パプア人をそれに働らかせ、自分の生活支持の爲には何等かの協同作業を行ふの情勢を生ずるに至れり。

此處にては、一ケ月五盾にて生活することを得るを以て、平均一〇日乃至一二日の出役にて充分なり。殘餘の日はニウギニア植民協會より借用の藏書にて日を送る。事業强制 (neringdwang) 行はるれど、ニウギニア植民協會は極めて穩和な態度に出で、全てに於いて移民等を援助するが故に西歐に於けるとは全く異なれる意義を有す。從つて凡ての移民が應分の生活を爲し得るが故に、勞働に對する刺戟を缺如す。此處にても亦、一規則が賢明なる策を包括すと雖も、移民等が自制するに非ざれば、そは無價値なりと云ふことは明らかなり。

## 一〇 パプア人勞働者の利用

パプア人勞働力を利用せずとのニウギニア植民協會の方策は、同質の歐亞混血兒を以て開拓地を建設せんとするものと看做すことを得。異なれる種族の共住する社會に於いては、歐洲人は手仕事を蔑視す。同質住民內に於いては、此の嫌惡は或る程度存在すれど、さ程の注意をひく現象には非ず。此處にては——「上流」層に於いてすら——日曜日に自ら寢室の整頓を爲すことを嫌惡せざれど(東)印度に於いては最低の貧窮民すら敢て高く持して自らは手を下さず。「東印度(インド)人は苦力仕事には良過ぎる」。故に今ニウギニアに於いてパプア人勞働力を使用せんか、結局、今日爪哇に於いて窮民を養ひ居るが如き社會の發生を意味す。それ故ニウギニア植民協會はその開拓地に同質の住民を要望せり。



併し乍ら既に社會的に低級種族の奉仕を享受せる人々が斯かる低級種族の突然消滅するに及び、自ら汗して働き得べきか否やは疑問なり。最も賢明なる者にあつては、結局恐らくは成功するなるべけれど彼等は窮民になる。又食糧缺乏も斯かる勞働に對する刺戟と成り得るならんも、こは熱帶地方に於いては全く稀有のことにして、今日斯かることは通用し得べからざる所とす。

パプア人勞働を使用すべきや否やの問題に於いては、南阿弗利加に於ける隔離に見るが如く同樣なるディレンマ生ず。即ち全ての人々の直接且つ個人的なる利己主義を將來に於ける種族利害との間には反對する所あればなり。然らば人は直接の個人的利己主義を犧牲にするや？ 今日迄之は唯高級の個々人にのみ可能なりしが、集團にありては稀なることなるも之こそ寔に問題の重點たるなり。一般的には各人はその苛烈にして不快なる仕事を好んで他の人に委ねるものにして、そは一般の人間的衝動とす。勞働に喜びを感ずる人は亦可能なる限り僅少の努力を以て常に可及的大なる成果を收めんと努むべく、此の努力の裡よりして技術及び機械化が生じ、之れ即ち吾人の現代的生活組織にして、吾人の今日の高度の生活基準を維持するを可能ならしむ。ヨーロッパ人は、パプア人の助力なくして、原住民的勞働方法を踏襲するに至るべきも、それに依り、ヨーロッパ人は極めて堅實なる生活を餘儀なくせらるるなり。加之、原住民農夫は、多量苛烈の勞働を爲さざるべからず。コッホ博士の計算に依れば、原住民式農法にありては一ヘクタールの玉蜀黍栽培に對し男子勞働一日八・四時間及び女子勞働一日一一・六時間五十日分を必要とす。ニウギニアに於いては農場栽培に對する配慮はより少にして、農場栽培は著しき程度に輕視せられ居るなり。亦土地の豐富なることにより大規模農法可能とせらる。併し乍ら原住民勞働力の使用禁令は凡ゆる場合に於いて、移民にとりては苛重長期の土地勞働を意味するなり。

## 一一　補助とその成績

ニウギニア植民協會の支拂ふ協會作業は木造家屋の建築なれども、不注意にして極めて不完全なる建築様式及び粗薄なる使用材料に依り、恐らく一兩年を出ですして改築を必要とするなるべし、此等の建物は高級移民の勞働に依り建築せられしも、パプア人なれば其勞銀は極めて安く、而も其の仕事の量及び質の相異は云ふに値せざる程小なるものなり。ニウギニア植民協會の當時の會長は此を「嚴密に必要なる」財政的助成方式と認めたるを以て、その意見に依り此の方式にて所要の全額を支出せり。されど、約五分の一の價格にて殆んど同様の建物を入手し得たるなるべし。一、二年にして消費せらるべきニウギニアの森林の眞唯中に在る、此等の所有財産の價値は勿論小なり。加之、それらは投下資本とは成らず、何等新しき物資を生まずして一時的性質の投資と云ふべし。

共同作業勞働者は一ヶ月に十日餘も出役せざれど、而も出役者は唯健康者に限らるるものと思料せらる。猖獗を極めつつあるマラリヤの爲めにその日數は減少す。併し彼等が出役せる此の短期間に於いても亦、その多くは、實際には勞働せざりしものと云はれ得。彼等は監督不充分なるに乘じ出來る限り共同作業を怠たるの風あり。其の間パプア人勞働者を使用せざる直接の結果として、開墾地は半ヶ年以内に雜草繁茂す。一訪問者は之に就きて記して曰く、「ものみな全て荒蕪たり。移民等の家は雜草裡に埋沒し、新しき農場又は農園の準備に就きては何等見るものなきが如し」開設せられたる道路は殆んど「道路」の名に値せず。此の期間内、一九三四年度中頃約三〇ヘクタールが伐り開かれしが、計約五ヘクタールが植付けられたるのみ。當時移民等は一月に一週間すら共同作業に出役せず、而かも出來る限り怠りたり。而して農耕地作業は公式禁止令期間中と雖も大部分はパプア人にて行はれたり。斯くしてパプア人はマラリア及び苦痛多き脚部創傷



の爲め放棄せられある森林を伐り拓きたるのみならず、餘多の仕事をも爲せり。斯くして此等三〇人の移民の、全力を盡せる勞働の基準として此の森林開拓すら觀る能はず。一兩年を經たる開拓勞働の成績は僅かに……若干の腐敗せる木造小舎を見るに過ぎざりき。

一九三四年以後、ホランヂアにありてはパプア人勞働力を充分に利用したるが故に、植付地域は堅實に擴張せられたることは、豫期し得る所にして、一九三六年二月一日には漸く一六ヘクタールが植付せられたり。和蘭に於ける農園が急速に斯かる面積の開拓をすることは認むべきなり。

ニウギニア植民協會は、その所屬の移民に依り、若干の粗惡なる家屋を建築せしめたるも、各農業植民地を設立すべき基礎たる田畑耕地は輕視せられたり。之れが開墾は最後に着手せられたるが、最初に着手せざるべからざる仕事、即ち心をこめたる植付に依り自ら食糧の自給を計るべきに、二、三のポテムキン式建築物の建造の爲に念頭より去りたるなり。

此の悲しむべき結果は何に起因するや。此の地方の地味不毛なりと云ふものあり。然れども、後刻述ぶるが如く、隣接地カイゼル・ウイルヘルムスランドの若干の歐洲人企業家及びドイツ人栽培業者等は同地に於て尙ほ稱すべき勤勉さを有すと雖も、彼等は夫々大體資本又は恩給を所有せり。併し乍ら當地の移民等は意思薄固に非ず、我等は之れが好範例を見たり。此の兩要素に次ぎ、眞に重大ならずと思はるる一理由を發見することを得。即ち其の理由とは夫れ自身單獨に內容良好なる改善案なり。換言せばニウギニア植民協會の補助及び援助と仕事慾を取り去りたる開拓地域に於ける組織なり。

フレーブルク博士は此の組織を大いに推賞し、蘭印及ニウギニアに於ける歐洲人植民の成功の可能性如何は、此の組織に依存するものとせり。」

## 一二 衞生狀態

併し乍らマクノワリに於ける如く、此の地もマラリアに依り痛く勞働力を損ふ處なり。元來キニーネ又は其の他のマラリア對症藥を用ひざる現住民間のマラリア疾病の調査の結果、マラリアが當地方に發生する程度に就き正しき認識を得るに至れり。卽ち移民住宅より一粁離れたパプア人村サブロンに於て調査の結果多數の人數に就き信憑すべき資料を入手せり。一九三一年には四七名の成年パプア人中三九名は脾臟擴大の症狀を呈し(八三%)、他方兒童二四名は悉く右と同一症狀を呈せり(一〇〇%)。同じく全體としては脾臟指數は八九%に達せり。現地住民間に於ける此の高度の脾臟指數以外にマラリア蚊が夥しく出現し、爲に此の地方は激烈なるマラリアの溫床と看做され、且つ開拓地としては極めて幸薄き所とせられたり。此の狀況は依然として變らざるなり。規則正しくキニーネを服用する移民の間にありては、より低き脾臟並に寄生虫指數を豫期することを得。其の調査の結果は次の如し。

ホランヂアのニウギニア植民協會移民に於けるマラリアの狀況

| 年月 | 被驗者數 | 脾臟指數 | 寄生虫指數 | 熱帶寄生虫病(對住民數) |
|---|---|---|---|---|
| 一九三一年 | 七八 | 四一% | 三二% | ? |
| 一九三四年三月 | 九九 | 六二% | 四六% | 三二%(!) |

一九三四年、移民がニウギニアに定着してより日猶ほ淺き頃には、脾臟並に寄生虫指數は、三年後に比して尙ほ著しく輕少なりしなり。此の高き數字より結論づける所は、卽ち規則的にキニーネを服用する移民にあつても、それにも不拘マラリア病の激しく流行することなり。三二%乃至四六%を占むる高度の寄生虫指數はマラリアが猶ほ猖獗を極むることを指示す。熱帶マラリア(Malaria Tropica)卽ち此の最も惡性なるマラリア種も流行し、平均すれば之に罹る移民は、危險の遙かに少なき三日熱(Tertiana)に冒さるる者の二倍に上る。未來に對する希望を失ひつつある事實は、卽ち移民が此の地にてはマノクワリと異なり、少くとも二開拓地に集中居住することにして、それに依り、衞生作業が差し當り頗る高價につくにせよ、將來に於いて更に尙ほ若干の對策を講ずべし。田畑の變更と開墾とを餘儀なくせらるる此の不毛の土壤は、マラリア蚊の好適なる培養地を爲し、以て更に阻害的一原因を爲す。豫防對策の實行は此處にても亦希望する所なり。或は蚊帳を使用せず、又使用するとしても無數の大なる穴を有せり。

マラリアは特に兒童の間に猖獗したるを以て多くの小兒を抱ける大家族が最も激しく惱む所なり。デ・ローク博士はニウギニアの開拓地域にあつては通常自宅に在らざるの故と看做せり。

一九三〇年には三名の死亡者現はれ、その內一名は黑水熱に因る。他方一九三四年には同一の病氣に依り一兒童死亡せるが、黑水熱が惡性マラリアの場合にのみ、キニーネの亂用に依り現はれ得るものたることを新渡來者にする方良しとす。平均約八〇名の總人員中五年間に於ける死亡者數は僅々五名に過ぎざりしなり。マラリアの流行する割合より見れば、此の死亡數が極めて少かりしは移民等が規則的にキニーネを服用する事實に因るものと云ふべきなり。と同時に此の風土病的マラリア繁殖地に於いては、此の死亡數が熱帶的降雨氣候を希望する地方に於いての、ヨーロッパ人の植民の成功不成功を判斷する爲めの正しき資料に非ざることを示す。

斯の如きマラリア猖獗にも不拘、開拓指導者の報告中に再三記されしは「衞生狀態は良好なり」とのことなり。之は前行の諸時代と正しく比較するときは正當なる文句なれど、此の比較根據を識らざる人々にありては、斯かる考へは誤れる印象を喚起するなり。衞生狀態に關する限り、マラリアに依りて爪哇に於けるよ

りも遙に不良なりと結論することを得。

更に、此處に於ける食糧は充分と云ひ得る所にして、食糧はマラリアにあつては力の回復にとり重大なる意義を有し、主として爪哇より送附せらるる米なり。副食物は豐富なるには非ざれど、マノクワリに於いてはその大部分が自作の農場より獲得し得るに反し、此處の移民等は專らパプア人より野菜及び果實茄子(ナロン)及び脚氣の爲に爪哇へ後送せられたるが、彼はホランヂアに栽培せらるるものは何一つ食さず、爪哇より移入せる米及び罐入りの肉に依つて生活せることを明かにせり。

最後にマノクワリに於いても亦多く現はるる脚部創傷に就き一言せむ。之は搔傷及び蚊の咬傷以外特に有名な北部ニウギニアの赤森虫(rode bosmijt)に依り惹起せられ、一夜にして非常な痒痛を生ず。若干の移民等にあつては、踝より膝に至る双方の下脚部を全く膿爛せる傷にて蔽ひ盡されし程なり。

## 一三　精神的特性

移民の必須とする生活條件たるに不拘、麥酒及び其の他直接必要とせざる物品は支那商店に於いてクーポン(貸賣券)にて入手す。同樣なる不注意の態度は一移民の妻の要求の裡に認めらるる所にして、彼女は一揃の蘭の購入の爲め爪哇まで人を派せしなり。普通の移民なれば生產の爲め、シャベルか又は他の農具を求めたらむに、彼女の求めしは……ピアノなりき！　彼等の一人が主務局にあてたる通信に曰く、『可なり！ニウギニア植民協會は最初の申込みに對し蓄音器、ワイシャッ及びズボン、プラス二拾盾の金を支給するほど善良なり。貴下は之に對し如何なる功績を以て酬はれんとするや？』一部の志願先發者は協會の費用にてホランヂアに向け愉快なる休暇旅行を爲し、其の地方を見物して、而して急ぎ船路にて歸來せり……。

小規模の活動を除きては、彼等の多數の特徵は神經質型のそれと一致するが如し。遂行配力は小にして、無節操は常なり。彼等は第二開拓計畫に就きて聞くや否や、卽時出發せんと欲したるなり。

移民の大半は、同じく激情性を示せり。屢〻一家を擧げての亂痴氣騷ぎに耽り、且つ食ひ且つ踊り而して就中、サイコロ遊びに夜を徹せしも度々なりき。「勞働は不適と稱せらるる所謂頻死の病人すらが狂熱的にサイコロ遊びのテーブルに向へり」。斯の如く、此の點に於いては彼等は丁度他の定着せるばかりの開拓地の移民等と異ならざれど、唯此處に缺くるものは全ての勞働慾と忍耐とのみなり。

誇張して物語らるる活潑な空想も亦彼等の特徵たり。夙に、彼等は何がしかの音樂的傾向を示し、唱歌及びギター演奏が熱心に練習せらるるなり。

欣然たる氣持は殆んど缺如せらるると共に、多くの者は相互に猜疑し合ひ美望は一般的なり。此等は唯信仰の差異に依りてのみ大部分惹起せられ得る所にして、蓋し若干の宗教上の關心の存すればなれど、之は猶ほ表面には現はれず。二二家族の中一七家族は新教、五家族はローマカソリックの信者たり。水桶より溢れ落つる水の最後の一滴同然、此の宗教上の差異こそ、此の開拓地に於ける不和の源泉と看做すことを得るものと信ず。

## 一四　財政狀態

マノクワリにあつては自主的な、幾分資本力ある移民を論ぜしが、此處にては殆んど例外なく貧窮者なり。故に此の點にてはマノクワリの移民の水準は、幾分より良きものと値踏みするを得べし。其の他の點にては此の差は小なり。

一九三四年九月には三六移民の內二二人は「補助金」以外に個人的源泉からの收入を得、二名は自身の節約金にて、一二名は爪哇より送附せらるる一ヶ月一〇盾乃至二〇盾の規定基金を入手し、二名の移民は每月

六〇盾より九〇盾の恩給を有すると共に、六名のステウルチェの殘留生徒は一九三四年三月迄一名當り月額四盾の補助金を受く。如上の次第より、財政狀態はマノクワリの移民のそれよりも遙に惡しきものたるを知り得べし。

ニウギニア植民協會植民地は低腦兒の出現するに至れると共に、若干の成人にして、精神の平衡を缺く者あり。當時の指導者ア・スハルクに對する一移民の殺人未遂はその一例なり。

如何なる理由に依り移民の質の斯くも惡しきか？　未來の地ニウギニアの素質の未熟なることが、此處へ移住せんとせる人々の標準を決定す。移民として成功せんが爲には、放浪者、不定者「常住移民」に屬する者たるを要せず。ヂプシーは此の型の群を爲せど、持久的なる開拓仕事には不向なり。此等の移民も亦斯くの如しと觀るを得るならむも、彼等とて現地住民に關聯して云へば貴族にして、其の爲に勞働に對する有能性は更に減退す。極めて重要なる事實は、彼等が移住し得むが爲に努力するを要せぬことにして、蓋し、此の爲には協會が配慮するが故なり。……即ち、良き組織の有害な一面たるなり。彼等は謂はば、移住せしめられたると同じなり。

## 一五　ＫＮＧ（ニウギニア植民協會）失敗す

ニウギニア植民協會は成功せりと稱し得るや？

此の質問に答へ得るが爲には、治安、勞働力及び衞生狀態の如何なるやを取調ぶるに若くはなし。ニウギニア植民協會所屬移民の多くは爪哇に於ける窮民に屬し、彼等の殆んど全ては救貧基金の恩惠に浴せり。彼等にとつては自己の家、自己の土地を與へられそのの生活基準の急激なる向上なり。

加之、此處にては、問題は「ニウギニアはジャワよりもより良き見込ありや」と云ふには非ずして「援助



なきジャワに於けるよりもニウギニア植民協會の援助と何らかの仕事とを與へらるるニウギニアに於ける方が生活良好に非ずや？」と云ふことなり。斯くしてニウギニア植民協會からの援助は、ニウギニアに於ける生活規準を決定する爲めの收入源と看做されても、之が移住を昂め最小範圍に限定するは當然たり。蓋し、此の協會は十倍乃至百倍も多き移民を扶助する力あらざればなり。而してそれと共に「東印度母國（インド）」を實現する爲に必要とせらるる、自發的植民が此の狀態にては全く除外せらるるなり。

此の試圖に對し、ニウギニア植民協會は幾何の費用を要せしか？　これは一九三一年一〇月より一九三三年五月迄（一八ヶ月間）に約五千二百盾、一九三三年六月より一九三四年二月迄（九ヶ月間）に約一萬七百盾の支拂と成れり。一九三四年度より一年に附約七千盾支給の政府補助金は、移民の近代的生活水準を維持せしむるに必須なる出費を植民協會の爲め負擔せり。即ち、問題は植民には非ずして慈善なり。さればこそ政府も亦慈善事業に對してのみ支給し得る國營富籤の收入の一部をニウギニア植民協會に對し支給し得たるなり。ニウギニア植民協會に對する扶助金交附の大いなる障害は、それが常態化せむとのことなり。それ故マノクワリに於いては（猶未だ！）斯かることも非ざるに、此處には常時被援助者の一群の人々ありて、而かも國家の費用にて一部のパプア人をして何等かの仕事に從事させ、自身は少しも働かざるなり。實に此等は社會の重荷なり。勞働し能はざる者に扶助金を支給するは自明當然のことなり。蓋しそこには適當の仕事なく、且つ支給するは好ましきことなればなり。併し乍ら働くことを欲せざる者に對してはそれだけの値打なし。

扶助付のニウギニアが窮民にとりてはジャワよりもより魅惑的なるや否やは、結局それと共に、又他の要素に依りて決定せらる。即ち、ニウギニア內地の寂寥たる生活慰安の缺如等と共に衞生狀態も亦一と役を演

ずるなり。

成功の度合を計るべき第二の資料たる勞働能力に關しては、ジャワと比較して、氣候が著しく不利なる影響を與へるに非ざることなり。之に反し、流行性マラリアと云ふ惡しき衞生狀態は此處では最惡の影響を及ぼす。常時の扶助が、一見して如何に親切に見ゆるとも、將來も風土病的マラリア繁殖地に居住せざるべからざるてふ條件は之を反對にす。

結局ニウギニア植民協會は、此處にては如何なる成果を獲しか？　三〇名の窮民が間接の扶助に依りて生存し得たることなり。ニウギニア植民協會の開拓事業は、斯くてマノクワリ周邊のそれより猶ほ低き成績を與へしのみ。蓋しマノクワリに於いては、自由移民が到る所獅子の分前を獲得せるを以てなり。斯くて此の植民は今日迄殆んど失敗同然と云はざるべからずと共に、將來の見込もマノクワリに於けるよりは猶ほ小なるなり。

此の失敗を確認するに當り、協會と移住地との間に差別を爲さんとす。協會は當初失敗せるにせよ、後にはその可能とせる範圍内の事を爲せり。併し乍ら此の移植民運動の最後の成功如何は、此等の移民の處理の手段及びジャワに於ける宣傳に依據する所少なく、寧ろ移民地に於て獲たる成績に俟つ所多し。斯の如く、宣傳より出發して後者に落付くなり。蓋し、此の植民地の重要性如何に就きては移民のみの最後に決定するが故なり。

## 一六　自由移民

自由移民はニウギニア植民協會の移民中より僅かに一部分派生せしのみにして、不平滿々として逃走せるニウギニア植民協會の移民之れなり。而して彼等はホール・マッフイン（Hol Maffin）の自由移民とイフアル（Ifar）の棉花栽培者なり。之に反して爾餘の者は、ニウギニア植民協會が此の近傍にその移住地を建設せざる内に既に定住し居りたり。

フムボルト灣岸に居住する三人のドイツ人栽培業者は全ての開拓植民地に名を知られし大農園企業家にして、慧敏な人々なりしも次第々々に貧窮と成り、殆んど歐洲人として生活し得ざるに至れり。その内の一人のみがドイツ婦人と結婚せり。

和蘭人栽培業者の内、最初の一人は一九二五年に恩給生活に入りし後此處に定着せり。彼の農園は手入も疎かにせられしが、國の補助の下に彼の建設せし製材所は相當なるものとなれり。

## 一七　棉花

第二の自由移民は一九三一年にニウギニア植民協會の移民として初めて此處に來りしが、間もなく分離獨立して、センタニ湖北方の不毛の原野に棉花の栽培を開始せり。一九三四年九月には一三ヘクタールを植付け、樹は多年生なりき。政府は舊式壓搾機改良の爲め、五千盾を無利息にて貸付けたり。

株式會社第一蘭印繃帶の材料工場（在スラバヤ）は此の地の棉花を使用し居れるが、その社長は一九三五年五月吾人に告げて曰く、品質は極めて上乘なり（纖維の長さ三・五―四糎）と。一粁當三〇仙にして同一の市場期間内にジャワ棉花より約二割方高し。一九三四年十一月以降は猶ほ僅に一千粁しか生産せず。此の地の移民のみが、輸出用として棉花を産出することを識れるに過ぎざりしに、一九三六年には虫害を蒙れり。

パプア人も之れに倣ひて、五〇ヘクタールの地に棉花を植付けたり。

此の棉花が高値にして良く世界市場向に生産され得るや否やは、輸送費の高額なるに鑑み、猶ほ不定なり。蘭領東印度諸島に於ける棉花は、僅に乾燥せる小スンダ列島及び爪哇のバンギール及びデマの如き、泥

灰岩土壌地に栽培せられ、此の土壌では他の作物に適せず。蓋し、棉花は比較的貧弱なる土地に於いても、猶ほ適當なる收穫を得るを以てなり。棉花は寧ろ土壌よりも、氣候に左右せらるること大にして、收穫期に雨ありとせんか、果皮より出づる棉花は價格を低落す。故に乾季なき氣候に於いては、收穫は極めて區々にして、同一の理由に依り棉花は寧ろ過大のよりも過小の降雨に耐ゆるなり。

棉花の大部分は北米合衆國南部より產出され、同地の乾燥月に於ける平均降雨量は七〇乃至八〇粍、平均年合計は一、三〇〇乃至一、六〇〇粍に達す。ニウギニアの氣候はより溫暖なれば、合計降雨量は幾分上向し得べきも、成熟にとりては乾燥季が必要なり。年合計二、三三六粍、最低月降雨量八六粍なるホランヂアは棉花栽培に可能なり。加之、イファルはホランヂアより更に雨少なきを以て乾燥度より高く、從つて、棉花栽培には好適なり。小サイクロープ山脈の遮雨地域にある此の小地點のみは乾季狀を呈し、其の他の北部海岸全體は一年を通じ非常に類似せるを以て高度の降雨量有るなり。サイクロープ山脈の南部には好適地は五〇〇乃至一、〇〇〇ヘクタールもあらず。南方に至るに從ひ降雨量は急速に高まると共に、乾季は直接消滅す。其の間輸費は增加するが故に、センタニ湖南方には棉花栽培の見込なし。

更に北部海岸マノクワリの南方、モミ平野は著しく稀な降雨量、年當り一、五〇〇乃至二、〇〇〇粍を有すれど、そは一年を通じ均分の降雨あり。蘭領ニウギニアの他の部分全體では、メラウケの周邊にのみ良き「棉花氣候」あると共に、コカスは年合計二、六五七粍の大なる降雨量を有し、ホランヂアと殆んど同一の事情にあり。メラウケ近傍のみが特に傑出せり。蘭領印度全體としては棉花の栽培は非常に危險にして、其處にては正しき棉花氣候は僅か一兩年續くに過ぎず、虫害が屢〻現はれ、ために收穫は非常に不定なり。

棉花栽培に依り、ニウギニアは日本にとりて重要なる土地となるべしとする宣傳の行はるる今日、此の宣傳全體が專らホランヂア近傍の一產業たる棉花栽培に依據するものたることを想はざるべからず。ニウギニア植民協會の移民にとりては棉花は恐らく長らく探し求めたる輸出產物たり得るべし。併し乍ら輸送費は高價につき「棉花地域」は極めて限定さるると共に、其の栽培は虫害に依り不安定たるなり。有利なる一原因は、センタニ湖畔のパプア人住民が比較的近接することなり。

センタニ湖畔の二人の純粹オランダ人「大農園業者」を過重に重要視すべからず。一人は主に恩給にて生活すると共に、他の一人のイファル近傍の棉花栽培地一三ヘクタールはそれ自體非常に稀なるものなり。

最後に猶ほ大豆に就き述べんに、それに就きては大なる期待に背く所なり。大豆は豐沃な土壌を必要とし、それはニウギニアには見出さざるものなり。正に開墾せるばかりの腐植土の森林地にては大豆は第一年度は繁殖す。此の世界市場向の產物が滿洲に於けるよりも安價に產出せらるべき機會は、不毛の土壌、溫暖なる氣候並に疎らな住民等を以てしては存在せざるなり。

449
181

終

## 關係「南洋資料」一班

| 番號 | 表題 | (編著者) | 價(錢) | 送料 |
|---|---|---|---|---|
| 四六二 | ホランデア及其の周邊 | (越村長次) | | |
| 二四〇 | 西部ニウギニア | (堤林謙受) | 五三 | 六 |
| 三二四 | マノクワリと其の周邊 | | | |
| 三三七 | ニウギニアの和蘭流刑地タナー・メラー | (越村長次) | 三八 | 六 |
| 三八四 | 農業植民地としてのアンギ湖地方 | (同) | 一一 | 六 |
| 三八五 | 農業植民地としてのメラウケ地方 | (同) | 二五 | 六 |
| 四一二 | 濠洲領ニウギニアに於ける鑛山移民 | (同) | | |
| 四一三 | 歐洲人移植民地としてのニウギニア中央山岳地帶 | (同) | | |
| 四六四 | ニウギニア村落誌 其の一 ‖ 北岸西部 | | 四二 | 六 |
| 一八四 | ニウギニア地名集成 | (三吉朋十) | 二三〇 | 一二 |
| 六五 | ニウギニア先覺細谷十太郎翁 | (東半球協會) | 一〇 | 六 |
| 三〇五 | マンベラモ河(附ニウギニア開拓方策腹案) | | 四五 | 六 |

備考——價の記入なきものは印刷中なり


●頒價 四十七錢
特別行爲稅相當額 六錢
合計 五十三錢
郵稅 六錢

昭和十九年十月一日印刷
昭和十九年十月五日發行

東京都赤坂區表町四ノ一
編輯兼發行人 小西干比古

東京都豐島區西巢鴨三ノ二七三
印刷者 山下謙之助

東京都豐島區西巢鴨三ノ二七三
印刷所 合資會社 光文社
(東京五六三)

發行所
東京都赤坂區表町四ノ一
財團法人 南洋經濟研究所
電話赤坂(48)一八四五番
振替東京一四五八二二番